

絆 求 め て

3月 18日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



記録で保育の質の向上に

絆求めてのNO. 17では、令和3年11月27日に行われた河邊貴子先生の秋季公開講座をもとに、「創造的な学び」についてふれさせてもらいました。子ども達の創造的な学びには、保育者の子ども理解に立った支援が重要であるとのことでした。子ども理解のために行っている活動で最もポピュラーなのが、保育記録であると思います。今回は、この保育記録について考えたいと思います。以下の内容は、河邊先生の講義内容をもとに作成しました。

<保育記録を何に利用するのか>

- 保育記録の目的は大まかに次の5つになります。①幼児を理解する ②幼児理解をもとに、次の保育を構想する ③保育者の在り方(支援)についての省察 ④保育者同士の情報共有 ⑤保護者との連携に生かす ④については、保育記録を園内研修に生かしている園も多いのではないのでしょうか。

<保育記録にはどのようなものがあるのか>

- 「保育マップ型記録」「週日案型記録」「個人名簿型記録」「日誌型記録」など、様々なものがあり、それぞれの形式には長短があります。ですから目指す保育の実現に向けて自園に合った記録様式を活用することが大切です。下記にそれぞれの様式の特徴をまとめました。

様式	特徴(＋…長所 -…短所)
保育マップ記録	(+) 保育環境に位置付けて、遊びの人間関係を記述する。同時に起きている遊びを記録することができる。 (-) 時間経過に伴う遊びの変化や人間関係の変化は記録しづらい。
週日案型記録	(+) その日の計画と対応させて保育を振り返るため、1週間の流れの中で子どもの姿をとらえやすい。 (-) 記述スペースが限られるため、活動の記録中心になりやすい。 *エピソードを記録できるスペースを別に設けるとよい。
個人名簿型記録	(+) 個々の姿を記録するため、遊びを通した経験や育ちを捉えやすく、保育者と子ども一人一人とのかかわりもとらえやすい。 (-) 年齢を超えて友達関係が深まると記述が難しくなる。
日誌型記録	(+) 1日の保育の流れに沿って記録するため、その日の活動を振り返りやすい。 (-) 事実の羅列になりやすいため、子どもの経験の読み取りを意識して記述する必要がある。

これらの保育記録は、保育を言語化し、可視化しているわけですが、保育の可視化では、保育ドキュメンテーションも多く取り入れられています。記録に写真を加えることで、情報共有がしやすくなり、保育者、保護者だけでなく、子ども達との共有も可能になります。また、記録作成の時間を短縮するという点でも効果があります。

<記録を保育に生かすために…SOAP型記録>

- 河邊先生の研修では、保育記録での記録内容にふれて、「SOAP型記録」についてお話をいただきました。SOAP型記録は、簡単に言えば子ども理解としての保育記録に支援の方向を加えたものと言えます。SOAPの「S」と「O」は、その日のことを振り返り、子どもが遊びや活動の中で学んでいることを捉える視点(=幼児理解)、「A」と「P」は、次の支援を考える視点(=理解に基づいた援助)です。「SOAP」について、もう少し具体的に説明すると次のようになります。

S (幼児の姿) ＜主観的データ＞	誰と誰がどこで何をしているか。何を使い、どのように関わっているか
O (読み取り) ＜客観的データ＞	何が面白いのか、どのような経験をしていたか、他者とのかかわりはどうか、対象とのかかわりはどうか、何が育っていると考えられるか…
A (保育者の願い) ＜アセスメント、評価＞	長期的な見通しの中で、どのような成長につながりそうか、次に何が必要かを検討する
P (環境の構成) ＜計画＞	その経験を満たすために必要な環境や活動、援助は何か

ここで、ポイントとなるのは、O (読み取り) です。「O (読み取り) から、様々な活動をしている子ども達の様子から、子ども達に共通する姿をくくりだすこと。それが保育者としての次の保育の見通し (ねらい) になるということ」です。そしてその見通し (ねらい) に合った支援や環境構成を工夫することで、子ども達の主体的な学びを高めることができるということです。

＜保育の振り返り実践を紐解く＞

長野北幼稚園では、月ごとに保育の振り返りを、A 4一枚程度にまとめるという実践をしています。その振り返りをSOAP型記録に合わせ考えてみました。(これは、振り返りの一部です)

【野菜の赤ちゃん】



ミニトマト、パプリカ、きゅうりの苗を『見て』『触って』『匂いを嗅いで』観察できるようにしました。
『赤ちゃんだから優しくしてあげてね😊』と伝えると、やさしくなでなで💖
葉っぱの形や大きさの違い、毛が生えているかいないかの違いも見つけました。
匂いもかいでごらん?と伝えると、くんくん...
『においするっ!!』『...ん?トマトのにおい?』
『くさいっ😞』感じ方、表現の仕方はさまざま
いろいろです😊感じる事や言葉にしてみる事が大切

☆活動場面 「野菜の苗の観察」☆

…保育者は、園児が観察する上で、観察のポイントを示しました。「見て」「触って」「匂いを嗅いで」園児は、葉の形の違い、毛の有無など様々なことに気づき発表してくれました。その際、保育者は「園児の匂いの感じ方は様々、またその表現の仕方も様々」であることに気づきました。そして、その発表での姿から、「どう表現したら良いか分からない子もいるのではないかと分析。そして、「自分が感じたところを、どう言葉で表現するかが大切」と考え、園児に「もっと感じる体験をさせたい」「感じたことを言葉にする経験をつませたい」という願いを持ちました。この願いは、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿で考えると、「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」に関係します。保育者はこの育ちのための具体的な手立てとして、次の月の活動に向けて以下のことを考えました。①水遊びの場面で、様々な感触を体験できるようにする(泥、絵具、新聞紙、のり…)②絵本の読み聞かせを多く取り入れる。③保育者の表現の仕方を工夫する。④園児が言葉で伝える姿を大切にする。

この一連の振り返りには、「SOAP」の要素がしっかりと描かれていると感じました。特に、発表の様子から、「自分が感じたところを、どう言葉で表

現するか」が大切と考え、「もっと感じる体験をさせたい」として「感じたことを言葉にする経験をつませたい」というねらいを明確にし、具体的な4つの手立て(環境構成)を導き出しています。この記録のように、単に保育を振り返るだけではなく、そこから見えて来た園児の姿をもとに、具体的な手立て(=計画)につなげていくことが重要ですね。このようにPDCAサイクルが機能する振り返りで、より質の高い保育につなげていけると良いですね。

この園では、保育の振り返りを作成する上で、「写真」をうまく取り入れています。非常に活動がわかりやすく、「良いな～」と感じました。保育記録に保育ドキュメンテーションを取り入れることで作成の効率化を図っている園も多々みられます。働き方改革の視点からも工夫していけるといいですね。(専門員)

*長野北幼稚園からいただいた他の資料を添付しましたので、参考にしてください。